

教団新報

定 価 1 部 140 円 (本 体 133 円 千 共 200 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円
紙 代 の み 3,500 円
振 替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発行人 内 藤 留 幸
編集主筆 竹 澤 知 代 志
印刷所 株式会社きかんし



小島牧師が 30 年伝道・牧会した 松山番町教会
(四国教区、伊予分区、愛媛県) … 4 月、同分区の久万教会に転任

起き上がりなさい

《ヨハネによる福音書 5 章 1～9 節》

イースターメッセージ

小島誠志



横たわる人々

エルサレムというのは都

です。王宮があり、また神
を礼拝する神殿がありまし
た。大きな祭りのときには
ユダヤ各地から、また世界
中に離散しているユダヤ人
たちが集まって来ました。

イエスも(弟子たちと共に)
そのときエルサレムに上ら
れたと記されています。

城壁のめぐらされた街で
すから、出入りするいくつ
かの門がありました。その
中の一つ、羊の門と呼ばれ
る門のかたわらにベトザタ
という池がありました。

そこに大勢の病気の人が
横たわっていました。「横た
わっていた」(ヨハネ 5:3)と
いうのはむろん事実を言っ
ているわけですが、同時に
そこにいる人々の生きさま
を表現している、とも言え
るのであります。ぐふたりと
横たわっていた、というよう
な姿であります。氣力を失

なっている様子です。

なぜそうした病人がそこ
に横たわっていたのか。一
つの理由は、おそらく、都
に来る人々の施しを受ける

苦しみのそばに立ちどまる

さて、ここに 38 年病気で
苦しんでいる人がいまし
た。イエスはその人を見た、
というのであります。「その

人の痛みを引き受ける

わたしたちも人を見ま
す。すこし見ただけでだ
いたいのことはわかって思
うのです。その表情から、ち
よっとしたしぐさから人の
性格を見抜く、人の欠点や
弱さを見抜く、そういう能
力、するとい観察眼はたい
ていの人がもっています。

ためであつたでしょう。そ
れによって命をつないでい
ました。

もう一つの理由は、ベト
ザタの池の水が湧き出した
とき、新鮮な水に体を浸し
た者の病気が癒やされると
信じられていました。

人が横たわっているのを
見、また、もう長い間病氣
であるのを知って」と書か
れています。「横たわってい

わたしという存在を担って

信仰とは神を知ること
であります。しかもっと正
しく言えば、神に知られる
ことでもあります。

(ガフテヤ 4・9)

神に知られる―それは点
検されるとき探忠されるこ
とではありません。わたし
たちの弱さや病いを知り共
感して下さる。御自身の
痛みとして担って下さる
ことです。救われていると
いうこと、神に知られてい
るということ、そういう
ことです。

信仰とは神を知ること
であります。しかもっと正
しく言えば、神に知られる
ことでもあります。

かもしられたらやっていたい
けなくないと思ひます。しか
し、神に知っていたらだ
いたいのことがわたした
ちの大きな安らぎです。喜
びです。

人から何と言われようと
どんな批判を受けようと、
神はわたしたちを、だれよ
りも深く知っていてくださ
り、このわたしという存在
を担っていてくださいま
す。それを知ることが信仰
なのです。ムリをしたり背
のびをしたり、そんなこと
をしなくていいのです。

イエスは 38 年間病気で横
たわっている人に問いまし
た。

うことはそういうことで
す。人の苦しみのそばに立
どまる。同じ場所に身を置
く。

「また、もう長い間病氣で
あるのを知って」「見」た
という言葉に「知つ」たと
いう言葉が付け加えられて
います。原語のギリシャ語
では、表面的に知ること
よりも深く知る―理解
すると読みとることもでき
ます。病む人の病いをその
内面まで深く知るのです。

苦しみの痛みまで理解するの
です。

自分の痛みとして引き受
けるということでありま
す。

自分の子どものことをと
やかく言われたら親は子ど
もの前にとび出してきてか
ばいますね。子どもの失敗

た。「良くなりたいか。奇
妙な質問です。良くな
いに決まっていると思ひま
す。しかし、長く苦しみ悩
んだ人は「良くなりたい」
とは言わないのです。

病人は答えました。「主
よ、水が動くとき、わたし
を池の中に入れてくれる人
がいないのです。わたしが

起き上がりなさい！

その男に、イエスは言わ
れました。

「起き上がりなさい。床を
担いで歩きなさい」(ヨハネ
5・8)。

人が冷たい世の中が
どうだの、みんなエゴイス
トだの、状況に負けている
ら、「起き上がりなさい」。

や恥を自分のものとしてか
ばいます。

それに似ています。イエ
ス・キリストは人の弱さ病
いを自分の痛みのように引
き受けるのです。そして悩
み、苦しみ、恥を負う。「彼

は軽蔑され、人々に見捨て
られ、多くの痛みを負い、
病を知っている。…彼が担
ったのはわたしたちの病
彼が負ったのはわたしたち
の痛みであつた。」

「床を担いで歩きだ
した。現実には打ちのめされ
ていた人、床に伏せてい
た人が、現実の中を生
き始めたのです。

がんはって力をふりし
ばって歩け、と言われるの
ではありません。わたしがこ
こにいるから、あなたが担
う復活の主があなたと共に
いるから一緒に歩くから。
起き上がりなさい！

「起き上がりなさい」とい
う言葉は「知つ」たとい
う言葉が付け加えられて
います。原語のギリシャ語
では、表面的に知ること
よりも深く知る―理解
すると読みとることもでき
ます。病む人の病いをその
内面まで深く知るのです。

共に祈り、支えよう！
Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具
体的な取り組みを日本基督教団として支援していくた
め、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を
下さいますよう、お願い申し上げます。

記
目 標 額 10 億円 (国内のみ)
期 間 2011 年 7 月 1 日 ~ 2015 年 3 月 31 日
振替番号 00110 - 6 - 639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
2012 年 4 月

教団救援対策本部長 石橋秀雄

互いの課題と痛みを通して互いが近づき

第 13 回台湾基督長老教会と日本基督教団との教会協議会



屏東の復興住宅を訪問したPCTと教団

「第13回台湾基督長老教会と日本基督教団との教会協議会」が、2月20日から23日にかけて台南の真理大学麻豆キャンパスを会場に行われた。

出席者は日本基督教団

(以下教団)より、石橋秀雄議長、内藤留幸総幹事始め18名、台湾基督長老教会(以下PCT)より石蓮城議長、張徳謙総幹事始め37名。

東日本大震災と台湾にお

いて2009年に700人近くの犠牲者を出した大水害(八八水災)との共通の痛みに祈り、その対応を互いに学ぶことを通して両者の関係をより強固にしてい

くことが、今回の協議会の目的であった。真理大学は、PCTが直接運営する大学であり、広大な自然の中に宿泊施設も備えられた豊かな会場であり、また八八水災により浸水し、貴重な図書などに被害を受けた現場でもあ

った。20日の開会礼拝ではPCT総会議長の石蓮城牧師から、東日本大震災への慰めと祈りが語られ、PCTと教団との災害と宣教における協力関係を、また国際社会における両国の更なる協力の確認がなされ、この協

議会を通してより豊かな関係を築いていくことのメッセージが語られた。2日目(21日)と3日目(22日)の朝にはそれぞれ祈禱会が持たれ、21日は星歐拉姆PCT総会副総幹事、22日は久世そらち北海教区議長よりメッセージが語られた。

2日目午前には教団より、前北未央職員、野田沢牧師、高橋真人牧師より発表がなされ、東日本大震災において、台湾が日本への最大の支援国であり、PCTが教団への最大の支援教会であることへの感謝が述べられ、教団における災害支援の現状と必要性、現場での寄り添いと苦悩、また原発事故の影響と対応についての発表がなされた。

午後にはPCT林芳仲副総幹事より、八八水災の被害とその対応が発表された。被害の大きかった山間部の部族には政府による支援の手が届きにくいこと、また集落と部族によって、それぞれ言語や習慣が違ふことなどが上げられ、PCTは政府による画一的な支援ではなく、部族に合わせた丁寧な支援を行っていることなどが語られ、多民族国家としての台湾の現状が知らされた。

また、PCTとしては、この災害支援を信仰者・牧会者の霊的成長の機会とし、極めて教会的な視点で捉え関わっていることが示された。信仰者による社会奉仕を信徒研修とし、信仰者の奉仕の姿勢が他者への証しとなり宣教となり求道者が与えられる。求道者への教育と見本のために信仰と学びを深め、そこに霊的成長が生まれる。そして、霊的に強められた豊かな信仰者として、再度社会へと派遣されていくという、社会奉仕・伝道・信仰訓練が1つの循環する輪として教会成長の指針とし、その全てに真摯に関わっていることが述べられた。

また、PCTではこの数年間に信徒数の倍増をテーマに、信徒一人が他の一人を教会へ導くことを推奨し、その業に丁寧に向き合っていることが示された。夜の総合討論の場では、PCTと教団より、それぞれ議長・総幹事が壇上に上り熱い想いが語られた。PCTとしては、この震災という痛みのある出来事を通して、

この災害支援を信仰者・牧会者の霊的成長の機会とし、極めて教会的な視点で捉え関わっていることが示された。信仰者による社会奉仕を信徒研修とし、信仰者の奉仕の姿勢が他者への証しとなり宣教となり求道者が与えられる。求道者への教育と見本のために信仰と学びを深め、そこに霊的成長が生まれる。そして、霊的に強められた豊かな信仰者として、再度社会へと派遣されていくという、社会奉仕・伝道・信仰訓練が1つの循環する輪として教会成長の指針とし、その全てに真摯に関わっていることが述べられた。

また、PCTではこの数年間に信徒数の倍増をテーマに、信徒一人が他の一人を教会へ導くことを推奨し、その業に丁寧に向き合っていることが示された。夜の総合討論の場では、PCTと教団より、それぞれ議長・総幹事が壇上に上り熱い想いが語られた。PCTとしては、この震災という痛みのある出来事を通して、

この災害支援を信仰者・牧会者の霊的成長の機会とし、極めて教会的な視点で捉え関わっていることが示された。信仰者による社会奉仕を信徒研修とし、信仰者の奉仕の姿勢が他者への証しとなり宣教となり求道者が与えられる。求道者への教育と見本のために信仰と学びを深め、そこに霊的成長が生まれる。そして、霊的に強められた豊かな信仰者として、再度社会へと派遣されていくという、社会奉仕・伝道・信仰訓練が1つの循環する輪として教会成長の指針とし、その全てに真摯に関わっていることが述べられた。

また、PCTではこの数年間に信徒数の倍増をテーマに、信徒一人が他の一人を教会へ導くことを推奨し、その業に丁寧に向き合っていることが示された。夜の総合討論の場では、PCTと教団より、それぞれ議長・総幹事が壇上に上り熱い想いが語られた。PCTとしては、この震災という痛みのある出来事を通して、

この災害支援を信仰者・牧会者の霊的成長の機会とし、極めて教会的な視点で捉え関わっていることが示された。信仰者による社会奉仕を信徒研修とし、信仰者の奉仕の姿勢が他者への証しとなり宣教となり求道者が与えられる。求道者への教育と見本のために信仰と学びを深め、そこに霊的成長が生まれる。そして、霊的に強められた豊かな信仰者として、再度社会へと派遣されていくという、社会奉仕・伝道・信仰訓練が1つの循環する輪として教会成長の指針とし、その全てに真摯に関わっていることが述べられた。

また、PCTではこの数年間に信徒数の倍増をテーマに、信徒一人が他の一人を教会へ導くことを推奨し、その業に丁寧に向き合っていることが示された。夜の総合討論の場では、PCTと教団より、それぞれ議長・総幹事が壇上に上り熱い想いが語られた。PCTとしては、この震災という痛みのある出来事を通して、

この災害支援を信仰者・牧会者の霊的成長の機会とし、極めて教会的な視点で捉え関わっていることが示された。信仰者による社会奉仕を信徒研修とし、信仰者の奉仕の姿勢が他者への証しとなり宣教となり求道者が与えられる。求道者への教育と見本のために信仰と学びを深め、そこに霊的成長が生まれる。そして、霊的に強められた豊かな信仰者として、再度社会へと派遣されていくという、社会奉仕・伝道・信仰訓練が1つの循環する輪として教会成長の指針とし、その全てに真摯に関わっていることが述べられた。

また、PCTではこの数年間に信徒数の倍増をテーマに、信徒一人が他の一人を教会へ導くことを推奨し、その業に丁寧に向き合っていることが示された。夜の総合討論の場では、PCTと教団より、それぞれ議長・総幹事が壇上に上り熱い想いが語られた。PCTとしては、この震災という痛みのある出来事を通して、

て、よりPCTと教団が近づいたと感じ、改めてPCTにとって教団がベストなパートナーであるという喜びを上げ、教団としてはこの震災の出来事を通して、PCTと教団が原発問題に協力して向き合うことなどが語られた。

教団としては、改めてこの度の震災における多額の献金と祈りに感謝するとともに、教団はPCTをはじめ世界の教会から祈りに覚えられており、震災と放射能の問題に全力で向き合うことが、それに報いることであると語った。

また、教団の震災復興への関わりは、社会貢献を通しての「地域の救済に奉仕する教会の再建」であり、この災害支援を通して教団1720余の教会が新しく

再建されることを願っており、詩編133編「見よ、兄弟が共に座っている。なんと恵み、なんとという喜び」を上げ、教団としてはこの震災の出来事を通して、立場、考え方の違う者たちが同じ席に着くことを目指している旨が語られた。

3日目は屏東地方と嘉義地域の2グループに別れ、それぞれが八八水災による被災地とPCTによる支援の視察に向かった。被害の大きい山間部の民族にはキリスト者が多く、PCTなどのキリスト教が超教派で関わっていること、また教会を中心に住居・学校・病院等の集落全体の回復がなされていること、信仰が被災者の一致と協力、また復興への希望となっているこ

と、教会が全てを負うのではなく、教会はコーディネーターとして他国のNGOなどを招き入れていることなどを学んだ。状況の違いはあるが教団による災害支援にも活かされる部分も多かった。

3日目の閉会礼拝では詩編124編が読まれ、苦難の中にあってもPCTと教団が共に御言葉に固く立つて歩もうとのメッセージが、石橋議長より語られ、最後の挨拶では教団はPCTと台湾の未来のために祈り続けるとの約束がなされ、固い握手と熱い拍手によって閉会した。

互いの課題と痛みを通して互いが近づき、主によりひとつとされた教会協議会であった。

(野田 沢報)

信仰者としての農に対する姿勢

松山で伝道委員会、「農」に関する協議会

第37総会期第4回伝道委員会

第37総会期第4回伝道委員会が2月27日、28日、松山城東教会(四国教区)において開催された。28日午後から同じ会場で開催される第8回「農」に関する協議会の、最終確認をも兼ねた委員会であった。

議事に先立って川崎善三委員の説教による開会礼拝を行った後、以下の主な案件を取り扱った。

2012年度開拓伝道援助申請に関する件(3件)では、矢板教会(関東教区)、千葉北総伝道所(東京教区)、桃花台伝道所(中部教区)からの申請を受理し、各240万円の援助を行うことを決定した。

2011年度後期分会堂貸出金申請に関する件(1件)では、茨木東教会(大阪教区)からの申請を受理し、1千万円の貸出を行うことを承認した。

伝道アイデアアンケートについては、集計作業に時間がかかり、現段階で各教会に提供できる形には至っていない。任期中に発行できるようにスケジュール調整を語り次回委員会までに案を作成できるように確認した。

6月25日、26日、西千葉教会(東京教区)にて開催予定の教区伝道委員長会議

教団伝道委員会主催による第8回「農」に関する協議会が、2月28日、29日、松山城東教会で開催された。

名称は前回より「活動者協議会」からより幅広い参加を期した「協議会」に改めた。

委員会の位置づけ」を趣旨とした発題をパネルディスカッション形式で行い、協議を語る予定。講演者・発題者についての人選および交渉を進めた。

次回委員会は右記の会議開催に合わせ、6月26日、27日に千葉で行うことを確認した。

第8回「農」に関する協議会

入隆氏(長野短期大学名誉教授、前日本聖書神学校講師)を迎えた。

日本の戦前期までの農村伝道、特に農民福音学校の歴史、カナダ合同メソヂスト教会の日本での活動による農村厚生運動、そして農民運動に大きな影響を及ぼした質疑応答、および翌日の全体協議において、参加者のフィールドからの多面的

な質疑を通して、「今日の農」への信仰者の関わりが語り合われた。

第二次大戦後に農村伝道への取り組みが解体していった経緯を踏まえ、「農村」という組織的対象が見えにくくなった今日の社会状況に照らして、現代において「御国が地に成ることを求める」キリスト教信仰を、いかに地域とのつながりで実現してゆくべきか、展望が模索された。

講演は予定時間を超え豊富な話題に及び、その後、会場教会の集会室でもたれた質疑応答、および翌日の全体協議において、参加者のフィールドからの多面的な質疑を通して、「今日の農」への信仰者の関わりが語り合われた。

塩入氏の主題講演が、歴史経緯の理解に重点を置く内容であったことを受けて、さらに参加者の今日の課題へと話し合いが広がった。

2日目、全体協議の後に閉会礼拝を守り、イザヤ書

ヒゼギヤの祈りに基づき、震災原発事故以降の状況下で、教会が何を発信し、人と共に生きていくかを祈り求め、散会した。

参加は伝道委員を含め31名。

(成田いしる)



マイクを持つ塩入隆講師、一番手前は斎藤仁一氏

働きを祈りのうちに覚える

第 2 回宣教師支援委員会



宣教師の活動状況の報告に
多くの時間を用いる

第37総会期第2回宣教師支援委員会が、2月6日、教団A会議室において開催された。

最初に、前回宣教師支援委員会議事録が承認され、続いて、事務局より、世界宣教師委員会についての報告を受けた。

その後、新任宣教師オリエンテーションに代わり、現在、着任した宣教師を個別に訪問している加藤誠幹事より、受け入れ宣教師の近況が報告された。宣教師の活動状況の報告に多くの時間を用いることが許され、それぞれの任地における働きを祈りのうちに覚えるという宣教師支援委員会の本来の役割を果たすことができた。

今後も、委員会において宣教師の近況報告を継続して行うことの大切さが確認された。協議事項に移り、宣教師会議2012の企画に関し

て話し合われた。前回の宣教師支援委員会において提示された宣教師会議2012(案)の中で当初予定されていた日程と場所において開催できないことが分かり、委員会において開催場所と時期について再度協議を重ねたところ、宣教師会議2012の開催場所を花巻近郊とし、日程を7月14、16日とすることに決定した。

現在のところ、今回の宣教師会議は次のようなプログラムで実施する予定である。1日目は、午後1時に集合し、開会礼拝を捧げた後にオリエンテーションを行う。夕食後に、参加者の相互の交わりを深めるための「交わりの時間」を持つ。2日目は、主日礼拝を捧げた後、釜石へのフィールドトリップを行う。3日目は、閉会礼拝とリフレクションを行い、午前11時に解散する予定である。

多くの宣教師とその家族の参加を願い、早速、宣教師会議2012の開催の準備に入ることが確認された。

その他の協議事項として、委員会として今後予定している宣教師の訪問について承認された。次回委員会は5月31日の開催を予定している。

(上田容功報)



大阪教会を会場に

2月8日から9日の日程で、大阪教会を会場に第5回教育委員会が開催された。今回、大阪での開催となったのは委員会に先立つ、教区教育担当者会議が

2月8日から9日の日程で、大阪教会を会場に第5回教育委員会が開催された。今回、大阪での開催となったのは委員会に先立つ、教区教育担当者会議が

る。今年度のクリスマス献金の全国の呼びかけ趣意書では「被災したお友だちを覚えて」ということをアピールした。このことを覚えてくださった教会・教会学校も少なくない。「被災したお友だちを覚えて」ということを具現化するためにどのように集められた献金を分配することができたらどうかと議論した。

協議の末、教団の救援対策本部の救援募金を通して、奥羽教区、東北教区、関東教区に、また一部は救援対策本部の活動のためにささげることとした。

またクリスマス応援セットの送付先の検討も行った。昨年度の応援セットの

2月7日から8日の日程で、大阪教会、河内長野教会を会場に、第37総会期教区教育担当者会を開催した。

17教区と東京の5支区で教会教育を担当している者が集い、情報の共有と、教会教育のための祈りが一つ

とされることを目的として、この会議は当初東北教区での開催を計画していたが、3・11の震災を経て変更を余儀なくされた。被災地への祈りをもって開かれた会議であったことも報告しておく。

北海道、京都教区、沖縄教区、東京・西南支区をのぞく17教区・支区からの参加を得た。多くの参加者が与えられたことを感謝したい。

大阪教会・岡村恒牧師による開会礼拝に続き、各教区の教会教育の現場からの

被災したお友だちを覚えて

第5回教育委員会

先は次の通り。

Aコース・茅ヶ崎堤伝道所、津久見教会。Bコース・糸満教会、北本教会、名取教会、Cコース・くまの伝道所、天白伝道所、軽井沢南教会、東広島教会。

次年度開催予定のユースミッション2012では台湾より青年を迎えることになっている。今回は伝道方

策委員会の後援する青年大会をプログラムの一つとする。また関西と関東で実行委員会を組織してこれを行うこととした。また日本教会から参加する青年を募ることも確認された。

キリスト教教育主事認定試験の受験資格が単位制に移行されることを受けて、単位取得のために、関西学

院大学、同志社大学、東京神学大学、青山学院女子短大などとの協力が得られることになった。

主事への門戸がより広く開かれ、その働きが豊かに用いられることを願い、教団の各教会にお知らせしていくことを委員会として行うこととした。

(清藤淳報)

希望を持って取り組んでいる

教区教育担当者会

北海道、京都教区、沖縄教区、東京・西南支区をのぞく17教区・支区からの参加を得た。多くの参加者が与えられたことを感謝したい。

大阪教会・岡村恒牧師による開会礼拝に続き、各教区の教会教育の現場からの

レポートを得た。17教区・支区の発表は、各々の置かれている状況や、地域性を反映したバラエティーに富んだものであった。どの現場でも独自の工夫があり課題があり苦労がある。一つひとつの活動の継続性という共通の課題があるが、直接担っている者たちは、希望を持って取り組んでいる。その姿勢がどの教区・支区の発表にもうかがえた。教団全体の中で教会教

育を共に協議できる大切な場であることも確認された。

同日の晩は、教会教育セミナーを開催。主の業に召されるものの喜び」と題して、教育委員の平田和子教育主事による講演がなされた。教会学校の生徒数の減少など、嘆きの声さえも慣れつつあった。静けさにある状況のなかで、神さまを仰いで用いられていくことを励まされた。70名近い参加者があった。

2日目は、現地研修として会場を河内長野教会に移動。河内長野教会が産み出した清教学園中学・高等学校の取り組みを、同校の川俣茂教務教師より学んだ。

教会学校から祈りをもって始められ、60年を経て今や2千人規模の学校になった。その一方で、建学の精神としてのキリスト教を行うき渡らせる苦労をうかがう。オプションとして、清教学園を実際に訪問し、聖書科の授業を見学した。

(清藤淳報)

事務局報

正教師登録

洪 徳意

(2012.1.16受按)

小田部進一、佐野 匡、

鈴木憲二、長尾ハンナ、

成田顕靖、横山 望

(2012.2.25受按)

教師異動

延岡城山 辞代(山田啓人

就主小糸健介

就主水島祥子

辞主犬養光博

福吉

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

消息

佐久間吉松氏(隠退教師)



12年3月2日逝去、85歳。

福島県に生まれる。'56年農

村伝道神学校を卒業、'57年

飯盛野教会に赴任、生野教

会、越生教会、大町教会を

経て、'88年より'96年まで益

子教会を牧会し隠退した。

遺族は息・佐久間牧人さん。

センター北

横浜市都筑区中川5-39

13 金岡ビル203

桃花台(伝)

小牧市桃ヶ丘2-17-4

伝道所所在地変更

教会所在地変更

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

佐久 辞(代)宇田 真

〃 就(代)山田 伸

教師隠退

武田英夫

教師退任

宮本牧人

教会解散

五日市光ヶ丘、のぞみ

伝道所廃止

福吉

教会所在地変更

なか(伝)

横浜市中区寿町3-10-1

13 金岡ビル203

桃花台(伝)

小牧市桃ヶ丘2-17-4

伝道所所在地変更

センター北

横浜市都筑区中川5-39

13 金岡ビル203

桃花台(伝)

小牧市桃ヶ丘2-17-4

伝道所所在地変更

教会所在地変更

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

富士吉田

それはそのような新たなつながりを生み出すものであると思う。

そして祈りは、そのつながりの広がりということも示していると思う。3月11日午後、仙台でもたれた集会に出席した石橋教団議長から、「2時46分：の黙祷の時が、日本基督教団全教会の祈りにつながり：世界の祈りにつながっているということが驚きであったと地元の方々の感想を聞きました」とのメールをいただいた。このような祈りのつながりと広がりもこれからも持ち続けて行きたい。

（教団総会書記 雲然俊美）